

医学部マイリス トーン令和6年改定版

コンピテンシ1： 社会人および医師としての 基本姿勢	1年終了時	2年終了時	3年終了時	臨床実習開始時	CC step1 終了時	卒業時
1-(1)		医師の仕事の概要を理解し、ヒューマンケアの担い手となる自覚を確立している。	医療倫理に関する基本的な考え方を説明できる。	臨床現場で行動するために最低限の倫理観、責任感、熱意、誠実さを備えている。	医療専門職としての倫理観、責任感、熱意、誠実さを備えている。	医療専門職としての倫理観、責任感、熱意、誠実さを備えており、それらを基盤として行動する。
評価担当		臨床入門(医師業務見学実習)	行動科学と医療倫理	PreCC2-1	CC step1	CC step2 & 3
1-(2)	人の多様性や個別性、患者の価値観について、基本的事項を説明できる。	医療機関や福祉施設での体験を通じて患者の生活や人生の重みを理解している。	患者さんの個別の背景を考慮(想像)できる。	患者中心に考えることについての社会における基本的な考え方とその成り立ちを説明できる。	患者を中心に考える姿勢ができています。	患者を中心に考え、患者や社会のために行動する。
評価担当	地域医療とチーム医療	臨床入門	行動科学と医療倫理	行動科学と医療倫理	CC step1	CC step2 & 3
1-(3)	身だしなみ、言葉遣い、態度など、他者と接する基本姿勢を理解している。	身だしなみ、言葉遣い、態度など、病院内で患者と接する準備ができています。	身だしなみ、言葉遣い、態度など、臨床実習において他者と接する準備ができています。	身だしなみ、言葉遣い、態度など、臨床実習において他者と接する準備ができています。	身だしなみ、言葉遣い、態度など、他者と接する基本姿勢を概ね身につけている。	身だしなみ、言葉遣い、態度など、他者と接する基本姿勢を身につけている。
評価担当	臨床入門	臨床入門	PreCCI-1, 1-2	PreCC2-1	CC step1	CC step2 & 3
1-(4)	他者の意見を傾聴し尊重することができる。	他者の意見を尊重し、自分の意見に取り入れることができる。	医療者はそれぞれの裁量と能力・技術の限界をわかまえ、連携していることを説明できる。		自身の裁量と能力・技術の限界をわかまえ、他者からの協力を仰ぎ、助言を活かす。	自身の裁量と能力・技術の限界をわかまえ、他者からの協力を仰ぎ、助言を活かす。
評価担当	臨床入門	臨床入門(まとめ)	PreCCI-2		CC step1	CC step2 & 3
1-(5)	本学の医学生としての規範を理解し、守ろうとする姿勢ができています。	① 医学生としての規範遵守の重要性を理解し、自分らの行動を律する・正すことができる ② 医師法・医療法における医師の役割を説明できる。	臨床実習を行う医学生としての規範を理解し、守ろうとする姿勢ができています。	① 臨床実習を行う医学生としての規範を遵守できる。 ② 医師の法的責務を説明できる。	法規定や組織の規則・規範を概ね遵守し、行動する。	法規定や社会・組織の規則・規範を遵守し、行動する。
評価担当	良医への道コース	① 構造系実習、機能系実習、 ② 地域医療とチーム医療	臨床実習1コース	① PreCC2-1,2-3 ② 社会医学コース	CC step1	CC step2 & 3

コンピテンス2： 基盤となる医学知識と その応用	1年終了時	2年終了時	3年終了時	臨床実習開始時	CC step1 終了時	卒業時
2-(1)	人体の正常構造と機能について概説できる。	人体の正常構造と機能を用いることができる。	人体の正常構造と機能を用いることができる。	人体の正常構造と機能を用いることができる。	人体の正常構造と機能を用いることができる。	人体の正常構造と機能を用いることができる。
評価担当	人体の構造と機能1コース	人体の構造と機能2コース	ヒトの病気1コース	ヒトの病気2コース	5年生総合試験	総合学習コース
2-(2)	人体を構成する細胞の構造と機能を概説できる。	個体の反応を臓器・細胞・分子のレベルで理解し、概説できる。	個体の反応を臓器・細胞・分子のレベルで理解し、知識を統合して臨床医学に適用できる。	個体の反応を臓器・細胞・分子のレベルで理解し、知識を統合して臨床医学に適用できる。	個体の反応を臓器・細胞・分子のレベルで理解し、知識を統合して臨床医学に適用できる。	個体の反応を臓器・細胞・分子のレベルで理解し、知識を統合して臨床医学に適用できる。
評価担当	細胞生物学コース	病気の基礎1コース	ヒトの病気1コース	ヒトの病気2コース	5年生総合試験	総合学習コース
2-(3)	行動に関する心理学と対人関係について基本的知識を概説できる。	人間の行動と心理の臨床場面での応用について概説できる。	健康行動理論と技法を概説できる。	行動変容の臨床現場での応用について概説できる。	人の行動と心理について正しい知識を有し、臨床実践に適用できる。	人の行動と心理について正しい知識を有し、臨床実践に適用できる。
評価担当	行動科学と医療倫理	行動科学と医療倫理	行動科学と医療倫理	行動科学と医療倫理	総合学習コース	総合学習コース
2-(4)	疾病の基本概念、発生機構、病理形態学について基本的事項を概説できる。	疾病の基本概念、発生機構、病理形態学について基本的事項を概説できる。	主要な臓器別疾患の病因、病態、診断、治療を概説できる。	主要な感覚器疾患および全身疾患の病因、病態、診断、治療を概説できる。	疾患における病因、病態、診断、治療について、知識を統合し応用できる。	疾患における病因、病態、診断、治療について、知識を統合し応用できる。
評価担当	病理総論	病気の総論	ヒトの病気1コース	ヒトの病気2コース	5年生総合試験	総合学習コース
2-(5)	老化と死生観について基本的知識を有し、自らの考えを述べることができる。		人の加齢、老化、死について概説できる。	人の成長と発達について概説できる。	人の成長、発達、加齢、老化、死について、知識を統合し応用できる。	人の成長、発達、加齢、老化、死について、知識を統合し応用できる。
評価担当	地域医療とチーム医療		地域医療とチーム医療	小児	5年生総合試験	総合学習コース
2-(6)	医療に関連する情報技術の概要を概説できる。	医療に関連する情報技術を自身の学修に、適切かつ効果的に活用できる。	医療に関連する情報技術を用いて医療データを分析できる。	医療に関連する情報技術を用いて正確に活用できる。	医療とそれを取り巻く社会に必要な情報技術を正しく理解し、有効に活用できる。	医療とそれを取り巻く社会に必要な情報技術を正しく理解し、有効に活用できる。
評価担当	人体の基礎科学コース	臨床入門	地域医療とチーム医療	PreCC2-3	CCstep1(特別演習)	

コンピテンス3： 診療技能・患者ケア	1年終了時	2年終了時	3年終了時	臨床実習開始時	CC step1 終了時	卒業時
3-(1)		医療面接における患者・家族・医療者の心理を理解しており、会話の基本的技法を概説できる。		実践に即した環境で医療面接を実施できる。	医療面接において、必要な情報を適切に聴取し要約できる。	医療面接において、必要な情報を適切に聴取し要約できる。
評価担当		行動科学と医療倫理		OSCE	CC step1	CC step2 & 3
3-(2)	バイタルサイン測定、一次救命処置について概説できる。	バイタルサイン測定、一次救命処置を行うことができる。		基本的な技法を用いて診察を行うことができる。	基本的な診療手技を適切に用いて身体診察を行うことができる。	基本的な診療手技を適切に用いて身体診察を行うことができる。
評価担当	臨床入門	臨床入門		OSCE	CC step1	CC step2 & 3
3-(3)		症候を基に病態生理を推論することができる。	PICO(PECO)を用いて問題を定式化し、二次情報からエビデンスを収集することができ。	PICO(PECO)を用いて問題を定式化し、二次情報から得られたエビデンスを批判的に吟味することができる。	臨床現場で、根拠に基づく医療(EBM)に則って、疾患を導きだし、治療方針を考案できる。	根拠に基づく医療(EBM)に則って症候、病態から疾患を導きだし、治療計画を立案できる。
評価担当	臨床推論	臨床推論	PreCC1-3	PreCC2-3	CC step1 (2週間配属診療科)	CC step2 & 3
3-(4)			診療情報とその扱い方について概説できる。	問題志向型医療記録について説明できる。	問題志向型医療記録形式(POMR)について理解し、診療録を記載できる。	問題志向型医療記録形式(POMR)で診療録を作成できる。
評価担当			診療の基本	PreCC2-3	CC step1	CC step2 & 3
3-(5)	グループワークでの学習内容を適切にまとめ、発表することができる。	患者の基本的な臨床情報を適切に要約して提示することができる。			医療面接において、情報を聴取し、概ね要約できる。	診療情報を適切に要約し、状況に応じて提示できる。
評価担当	医学の探求	臨床入門(光の家実習)			CC step1	CC step2 & 3

コンピテンス4： 自ら学ぶ姿勢と問題対応能力	1年終了時	2年終了時	3年終了時	臨床実習開始時	CC step1 終了時	卒業時
4-(1)	医師のキャリアと生活について概説できる。	医師には学習を生涯継続し、知識と技能を維持し続ける責務があることを説明できる。			自身の知識・技能や行動に責任を持つことが出来る。	自身の知識・技能や行動に責任を持ち、生涯にわたって自らの努力で向上し続ける行動力を有している。
評価担当	キャリアデザイン	キャリアデザイン			CC step1	CC step2 & 3
4-(2)	問題点に対する解決法を探索するため、適切な学修方法を選択し必要な学修を行うことができる。	知的関心に基づいて学修を完遂することができる。		自ら実習の目標を立て、方略を考え、実施し、目標達成を目指して主体的に学習することができる	主体的に学ぶ技能と習慣を身につけている。	主体的に学ぶ技能と習慣を身につけている。
評価担当	医科学の探索	選択必修		PreCC2-1	CC step1	CC step2 & 3
4-(3)	自分の行動について、考えたことや感情及び課題を説明できる。		自らの体験を振り返り、自分の課題を見出し、今後の行動にどのように繋げるかについて説明できる。		臨床実習の経験を振り返ることができる。	自らの行動を振り返り、学び続けることができる。
評価担当	臨床入門		PreCCI-1		CC step1	CC step2 & 3
4-(4)	① 科学的思考の基本となる自然科学の基本的知識と概念を概説できる。 ② グループワークの中で、与えられたテーマから問題点を抽出し、自ら学習方法を選択して解決法を探索することができる。	観察や実験の結果に基づいて、論理的に結論を導き出し、その過程を説明できる。		臨床事例における臓器や病理標本の観察結果に基づいて、論理的に結論を導き出し、その過程を説明できる。	解決すべき課題・問題点について、自己学習することができる。	解決すべき課題・問題点を自ら発見し、解決していくことができる。
評価担当	① ②医科学の探索	機能系実習1, 2		PreCC2-2	CC step1	CC step2 & 3
4-(5)		医師としての将来設計図、またライフイベントを予測した自分の将来設計図を描くことができる。	医師として卒業後の多様な進路を理解し、そのための研鑽の方法を説明することができる。		卒業時点で修得している知識や技能をさらに深め、研鑽することが必要であること を理解しており、卒業臨床研修への移行の準備ができている。	卒業時点で修得している知識や技能をさらに深め、研鑽することが必要であること を理解しており、卒業臨床研修への移行の準備ができている。
評価担当	キャリアデザイン	キャリアデザイン	キャリアデザイン		CC step1	CC step2 & 3

コンピテンシ5： 研究マインド	1年終了時	2年終了時	3年終了時	臨床実習開始時	CC step1 終了時	卒業時
5-(1)	与えられたテーマを調査・学修するために必要な情報を収集することができる。	科学的情報を適切に収集し、それらを用いて論理的に自分の考えを示すことができる。	科学的情報を適切に収集し、論理的・批判的に思考できる。			
評価担当	医科学の探索	機能系実習1、2、物質系実習	研究入門			
5-(2)	①研究の計画、実施、結果の解析、発表などの過程を概説できる。 ②医学研究に必要な統計手法の基本的な考え方を理解し、必要な測定を行なって得られたデータについて統計処理ができる。	研究を行うために必要な研究倫理・安全上のルールについて説明できる。	① 医学・医療の発展のために研究が重要であることを認識し、研究の計画、実施、結果の解析、発表などの具体的な過程や手法を理解し、研究倫理の基本を踏まえて、取り組むことができる。 ② 疫学研究の方法を理解し、適切な研究計画を立案し結果を分析できる。			
評価担当	①医科学の探索 ②人体の基礎科学	研究入門	① 研究入門 ② 病気の基礎2			

コンピテンス7： チーム医療	1年終了時 他のメンバーと協働してグループワークを進めることができる。	2年終了時 ① 保健医療福祉介護の現場で働く様々な専門職の専門性を理解し説明できる。 ② 自分の専門の特徴について表現することができる。	3年終了時 ① 医師、看護師、薬剤師等の保健医療福祉専門職の専門性や立場を理解し、医師に求められる行動について説明できる。 ② 自己と患者や住民を含むチームメンバーの専門性や立場を理解し、自己の役割と能力の限界について説明できる。	臨床実習開始時	CC step1 終了時 実践現場で保健医療福祉専門職のチームメンバーと協働できる。	卒業時 患者、同僚や他職種のメンバーを尊重し、自己の役割と能力の限界を理解し、実践現場で保健医療福祉専門職のチームメンバーと協働できる。
評価担当	臨床推論	①地域医療とチーム医療 ②行動科学と医療倫理	①PreCC1-2 ②地域医療とチーム医療		CCstep1	CC step2 & 3
7-(2)	グループ活動で積極的に発言することができる。	チームを作る過程とそのために必要なスキルについて説明できる。	チームメンバーと目標を共有するために、話し合うことができる。		診療チームの中で、意見の違いを乗り越えて合意形成の過程に参加する。	患者を含むチームメンバーと目標を共有し、意見の違いを乗り越えて合意形成の過程に参加する。
評価担当	臨床推論	地域医療とチーム医療	PreCC1-1		CCstep1	CC step2 & 3

コンピテンス 8 : 医療の質と安全の管理	1 年終了時	2 年終了時	3 年終了時	臨床実習開始時	CC step1 終了時	卒業時
8-(1)			医療安全とその管理体制について概説できる。	医療安全を確保するために医療スタッフとしてどのように行動すればよいかを概説できる。	医療安全の知識を有し、それに基づいて概ね行動できている。	医療安全の知識を有し、それに基づいて行動できる。
評価担当			行動科学と医療倫理	行動科学と医療倫理	CC step1	CC step2 & 3
8-(2)	医療関連の資源とその役割を説明できる。		医療資源を理解し、その役割を説明できる。	医療資源の有効活用についての考え方を確立している。	医療資源を適切に活用する必要性を理解し、それに基づいて行動できる。	医療資源を適切に活用する必要性を理解し、それに基づいて行動できる。
評価担当	臨床入門(病院見学&在宅医療)		地域医療とチーム医療	疾病の予防と対策	CC step1	CC step2 & 3

コンピテンス9： 地域および国際社会の医療	1年終了時	2年終了時	3年終了時	臨床実習開始時	CC step1 終了時	卒業時
9-(1)	地域医療の現状と課題を概説できる。	認知症を含む高齢者の暮らしを支えるための地域医療の課題と総合診療・プライマリケアの意義を概説できる。	地域医療・地域保健の現状と課題を理解し、高齢者のケア、保険診療について概説できる。	医療経済や地域における様々な保健医療福祉介護の制度と資源を理解し、地域や社会の要請について概説できる。		医療経済、地域の保健医療福祉介護の制度と資源、ならびに地域医療の現状と課題を理解し、地域医療の実践現場に積極的に参加する。
評価担当	地域医療とチーム医療	地域医療とチーム医療	地域医療とチーム医療	疾病の予防と対策・環境と健康・社会医学実習		CC step 3
9-(2)			保健医療における国際的課題について概説できる。	保健医療における国際的課題を理解し、医療における国際貢献の意義を概説できる。		
評価担当			キャリアデザイン	疾病の予防と対策・環境と健康		
9-(3)	医学・医療に関する基本的な英語の専門用語を列挙することができる。	基礎医学の内容について基本的な英文を読解できる。	臨床医学の専門書や研究報告書を読解する基本的な力を身に付ける。	医療情報を英語で収集し、その概要を説明できる。		
評価担当	医学英語	医学英語	医学英語	医学英語		

1年生

	コンピテンシー	マイルストーン(1年次)	評価担当ユニット	評価方法	(具体的な評価の基準があれば記入してください)	補習方法	再評価の方法
1-(1)	医療専門職としての倫理観、責任感、熱意、誠実さを備えており、それらを基盤として行動する。						
1-(2)	患者を中心に考え、患者や社会のために行動する。	人の多様性や個性、患者の価値観について、基本的事項を説明できる。	地域医療とチーム医療	レポート(出席課題を用いて評価)	自分が理解したことを言語化できていること。	講義資料を熟読する。	再レポート
1-(3)	身だしなみ、言葉遣い、態度など、他者と接する基本姿勢を身につけている。	身だしなみ、言葉遣い、態度など、他者と接する基本姿勢を理解している。	臨床入門	教員による評価 出席および遅刻、見だしなみ、態度、提出物の遅れを減点法で採点する。		面談。レポート提出。	振り返りができていれば合格。
1-(4)	自身の裁量権と能力・技術の限界をわきまえ、他者からの協力を仰ぎ、助言を活かす。	他者の意見を傾聴し尊重することができる。	臨床入門	コミュニケーション実習での模擬患者の評価で行う。	最低の評価以外は合格	面談。レポート提出。	振り返りができていれば合格。
1-(5)	法規定や社会・組織の規則・規範を遵守し、行動する。	本学の医学生としての規範を理解し、守ろうとする姿勢ができている。	良医への道コース	各ユニットが設定する守るべき本学の規範の遵守状況に基づき、コース会議で達成を評価する。	行動科学と医療倫理、キャリアデザイン、医学英語1, 2, 3:75%以上の出席 選択必修:2/3以上の出席 地域医療とチーム医療:75%以上の出席 態度(提出物の期限の厳守) 臨床推論:75%以上の出席 チューターからの実習態度の評価 臨床入門:90%以上の出席と欠席時の事前連絡 実習態度(身だしなみ、提出物の期限の厳守)	教員による面談と振り返り	振り返りレポート
2-(1)	人体の正常構造と機能を理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。	人体の正常構造と機能について概説できる。	人体の構造と機能1コース	各ユニットの定期試験	65点以上で合格	シラバス・講義資料・授業収録を用いて自己学習	各ユニットの再試験
2-(2)	個体の反応を臓器・細胞・分子のレベルで理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。	人体を構成する細胞の構造と機能を概説できる。	細胞生物学コース	定期試験・実習出席・実習レポート・小テスト	定期試験は65点以上で達成していると認定 実習では出席点・レポート点・態度点を加味して、65点以上で達成していると認定	講義形式(場合によっては動画の視聴)	再試験・再レポート
2-(3)	人の行動と心理について正しい知識を有し、臨床実践に応用できる。	行動に関する心理学と対人関係について基本的知識を概説できる。	行動科学と医療倫理	筆記試験	定期試験65点以上で達成とする。	講義資料を用いて学習	再試験
2-(4)	疾患における病因、病態、診断、治療について、知識を統合し応用できる。						
2-(5)	人の成長、発達、加齢、老化、死について、知識を統合し応用できる。	老化と死生観について基本的知識を有し、自らの考えを述べるができる。	地域医療とチーム医療	出席課題・ユニット内試験	自分が理解したことを言語化できていること。	講義資料を熟読する。	レポート
2-(6)	医療とそれを取り巻く社会に必要な情報技術を正しく理解し、有効に活用できる。	医療に関連する情報技術の概要を概説できる。	人体の基礎科学コース(データサイエンス)	定期試験	人体の基礎科学1(データサイエンス)および人体の基礎科学2(データサイエンス)の定期試験のうち、情報技術に関する問題部分について65%以上を正答していること。	講義動画の視聴	課題提出
3-(1)	医療面接において、必要な情報を適切に聴取し要約できる。						
3-(2)	基本的な診療手技を適切に用いて身体診察を行うことができる。	バイタルサイン測定、一次救命処置について概説できる。	臨床入門	バイタルサインは小テストでの評価、BLSに関しては提出されたビデオ評価	50%以上正答で合格。	レポート提出。	レポート評価
3-(3)	根拠に基づく医療(EBM)に則って症候、病態から疾患を導きだし、治療計画を立案できる。						
3-(4)	問題志向型医療記録形式(POMR)で診療録を作成できる。						
3-(5)	診療情報を適切に要約し、状況に応じて提示できる。	グループワークでの学習内容を適切にまとめ、発表することができる。	医科学の探索	テュータチェックリストによる評価(ユニット進行中とユニット終了時に2回)	グループでの学習において、自分の分担部分に責任もって取り組んでいるかどうか。	レポート提出	テュータによる評価
4-(1)	自身の知識・技能や行動に責任を持ち、生涯にわたって自らの努力で向上し続ける行動力を有している。	医師のキャリアと生活について概説できる。	キャリアデザイン	1,2年合同ワークの日のショートレポートの内容で評価する。 ※1.医師の多様な将来像やワークライフバランスについて理解したことを記述せ	学生自ら体験から学んだことに基づき概説できているかどうか。	キャリアデザインインタビューの報告書を再度熟読する。	初回評価と同じ課題への解答を求める。
4-(2)	主体的に学ぶ技能と習慣を身につけている。	問題点に対する解決法を探索するため、適切な学修方法を選択し必要な学修を行うことができる。	医科学の探索	テュータチェックリストによる評価(ユニット進行中とユニット終了時に2回)	グループでの学習において、自分の分担部分に責任もって取り組んでいるかどうか。	レポート提出	テュータによる評価
4-(3)	自らの行動を振り返り、学び続けることができる。	自分の行動について、考えたことや感情及び課題を説明できる。	臨床入門	レポート(人と関わる体験を振り返る)	自分が理解したことを言語化できていること。	フィードバックされた講評をもとに復習	レポート再提出
4-(4)	解決すべき課題・問題点を自ら発見し、解決していくことができる。	① 科学的思考の基本となる自然科学の基本的知識と概念を概説できる。 ② グループワークの中で、与えられたテーマから問題点を抽出し、自ら学習方法を選択して解決法を探索することができる。	医科学の探索	テュータチェックリストによる評価(ユニット進行中とユニット終了時に2回)	グループでの学習において、自分の分担部分に責任もって取り組んでいるかどうか。	レポート提出	テュータによる評価
4-(5)	卒業時点で修得している知識や技能をさらに深め、研鑽することが必要であることを理解しており、卒業臨床研修への移行の準備ができている。						
5-(1)	科学的情報を適切に収集し、論理的・批判的に思考できる。	与えられたテーマを調査・学修するために必要な情報を収集することができる。	医科学の探索	テュータチェックリストによる評価(ユニット進行中とユニット終了時に2回)	グループでの学習において、自分の分担部分に責任もって取り組んでいるかどうか。	レポート提出	テュータによる評価
5-(2)	医学・医療の発展のために研究が重要であることを認識し、研究の計画、実施、結果の解析、発表などの具体的な過程や手法を理解し、研究倫理の基本を踏まえて、取り組むことができる。	① 研究の計画、実施、結果の解析、発表などの過程を概説できる。 ② 医学研究に必要な統計手法の基本的な考え方を理解し、必要な測定を行なって得られたデータについて統計処理ができる。	医科学の探索	動画教材を用いたオンデマンド学修の内容で評価する。	MCQでの正答率。記述課題が白紙でなく、自らの考えを述べていること	初回評価と同じ課題への回答を求める。	初回評価と同じ基準で評価する。
6-(1)	患者やその関係者に敬意と思いやりを持って接し、傾聴、共感などを伴う支持的なコミュニケーションを実践できる。	コミュニケーションの重要性を理解し、コミュニケーションの基本を概説することができる。	臨床入門	コミュニケーション実習でのレポートで評価を行う。	評価の観点を決めて点数化。65点以上で合格とする。	面談・レポート提出	再レポートを評価の観点を決めて点数化。65点以上で合格とする。
6-(2)	適切な情報を患者およびその家族が理解しやすい言葉で伝えるときにも、相手のメッセージを受け取り、相互に理解できる。	相手の話を十分に聴き、メッセージを受け取ることができる。	臨床入門	模擬患者の評定尺度で評価。	最低の評価以外は合格	面談・レポート提出	振り返りができていれば合格。
7-(1)	患者、同僚や他職種のメンバーを尊重し、自己の役割と能力の限界を理解し、実践現場で保健医療福祉専門職のチームメンバーと協働できる。	他のメンバーと協働してグループワークを進めることができる。	臨床推論	テュータによる評価	最低の評価以外は合格	評価結果に対する振り返りを行いレポートを提出。	その他のグループ活動のピア評価並びに振り返りレポートを用いて評価する。
7-(2)	患者を含むチームメンバーと目標を共有し、意見の違いを乗り越えて合意形成の過程に参加する。	グループ活動で積極的に発言することができる。	臨床推論	テュータによる評価	最低の評価以外は合格	評価結果に対する振り返りを行いレポートを提出。	その他のグループ活動のピア評価並びに振り返りレポートを用いて評価する。
8-(1)	医療安全の知識を有し、それに基づいて行動できる。						
8-(2)	医療資源を適切に活用する必要性を理解し、それに基づいて行動できる。						
9-(1)	医療経済、地域の保健医療福祉介護の制度と資源、ならびに地域医療の現状と課題を理解し、地域医療の実践現場に積極的に参加する。	地域医療の現状と課題を概説できる。	地域医療とチーム医療	ユニット内テスト	65%以上の得点	講義資料とシラバスを用いて学習	レポート
9-(2)	保健医療における国際的課題を理解し、医療における国際貢献の意義を概説できる。						
9-(3)	医療情報を英語で収集し、その概要を説明できる。	医学・医療に関する基本的な英語の専門用語を列挙することができる。	医学英語	医学英単語テスト、授業課題、プレゼンテーション、定期試験など	基本的にユニット評価の可否と同じ基準	面談による学習相談、授業課題の復習など	ペーパーテストなどによる再試験

2年生

	コンピテンシー	マイルストーン(2年次)	評価担当ユニット	評価方法	(具体的な評価の基準があれば記入してください。)	補習方法	再評価の方法
1-(1)	医療専門職としての倫理観、責任感、熱意、誠実さを備えており、それらを基盤として行動する。	医師の仕事の概要を理解し、ヒューマンケアの担い手となる自覚を確立している。	臨床入門	医師業務見学実習後レポート	学生自ら見学で学んだ事にに基づき自覚が確立されているかどうか。	面談と振り返り	再レポート
1-(2)	患者を中心に考え、患者や社会のために行動する。	医療機関や福祉施設での体験を通じて患者の生活や人生の重みを理解している。	臨床入門	光の家レポート	学生自ら体験で学んだ事にに基づき理解されているかどうか。	面談と振り返り	再レポート
1-(3)	身だしなみ、言葉遣い、態度など、他者と接する基本姿勢を身につけている。	身だしなみ、言葉遣い、態度など、病院内で患者と接する準備ができています。	臨床入門	教員による評価 出席および遅刻、見だしなみ、態度、提出物の遅れを減点法で採点する。		面談。レポート提出。	振り返りができていれば合格。
1-(4)	自身の裁量権と能力・技術の限界をわきまえ、他者からの協力を仰ぎ、助言を活かす。	他者の意見を尊重し、自分の意見に取り入れることができる。	臨床入門	コミュニケーション実習での模擬患者の評価で行う。	最低の評価以外は合格	面談。レポート提出。	振り返りができていれば合格。
1-(5)	法規定や社会・組織の規則・規範を遵守し、行動する。	①医学生としての規範を遵守できる。 ②医師法・医師法における医師の役割を説明できる。	①構造系実習、機能系実習、臨床入門実習などの実習系 ②地域医療とチーム医療	①実習に対する取り組み姿勢・態度により評価する。 ②ユニット内テスト(選択式)	①医学部学生の行動規範に反していない。 ②正解	①教員からの指導 ②講義資料を用いて自己学習	①レポートの提出 ②レポートの提出、WebClassでの再テスト
2-(1)	人体の正常構造と機能を理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。	人体の正常構造と機能を理解し、知識を統合して応用できる。	人体の構造と機能2コース	各ユニットの筆記試験および口頭試験(コースとして判定する。)		各ユニットの再試験、学生が呼びかけに応じた場合の任意の補習。	各ユニットの再試験、レポートの個別再提出。
2-(2)	個体の反応を臓器・細胞・分子のレベルで理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。	個体の反応を臓器・細胞・分子のレベルで理解し、概説できる。	病気の基礎1コース	定期試験	65点以上で達成していること	講義動画の視聴ならびにシラバス、講義資料での学習	再試験で65点以上で達成していること
2-(3)	人の行動と心理について正しい知識を有し、臨床実践に応用できる。	人間の行動と心理の臨床場面での応用について概説できる。	行動科学と医療倫理	定期試験	関連問題の合計点で評価	講義資料を用いて復習・定期試験合格者には課題	再試験・提出された課題を評価
2-(4)	疾患における病因、病態、診断、治療について、知識を統合し応用できる。	疾病の基本概念、発生機構、病理形態学について基本的事項を概説できる。	病理総論	中間試験・定期試験・実習出席・実習レポート	中間試験と定期試験の合計点が130点以上で達成していると認定実習はレポートで評価	講義動画の視聴ならびにシラバス、講義資料での学習	再試験で65点以上で達成していると認定
2-(5)	人の成長、発達、加齢、老化、死について、知識を統合し応用できる。	介護や認知症など高齢者をとりまく社会的側面について概説できる。	地域医療とチーム医療	ユニット内テスト(記述式)	ルーブリック表を用いて評価	講義資料を用いて復習	WebClassにレポート提出
2-(6)	医療とそれを取り巻く社会に必要な情報技術を正しく理解し、有効に活用できる。	医療に関連する情報技術を自身の学修に、適切かつ効果的に活用できる。	臨床入門	実習出席・小レポート	実習を重視するため、出席と小レポートの提出をもって合格とする。	動画の視聴	動画視聴の実績と小レポートの提出
3-(1)	医療面接において、必要な情報を適切に聴取し要約できる。	医療面接における患者・家族・医療者の心理を理解しており、会話の基本的技法を概説できる。	行動科学と医療倫理	定期試験	関連問題の合計点で評価	講義資料を用いて復習・定期試験合格者には課題	再試験・提出された課題を評価
3-(2)	基本的な診療手技を適切に用いて身体診察を行うことができる。	バイタルサイン測定、一次救命処置を行うことができる。	臨床入門	バイタルサインは小テストでの評価、BLSIに関しては提出されたビデオ評価	50%以上正答で合格。	レポート提出。	レポート評価
3-(3)	根拠に基づく医療(EBM)に則って症候、病態から疾患を導きだし、治療計画を立案できる。	症候を基に病態生理を推論することができる。	臨床推論	確認テスト	60%以上正答で合格。	演習内の課題の復習	レポート
3-(4)	問題志向型医療記録形式(POMR)で診療録を作成できる。						
3-(5)	診療情報を適切に要約し、状況に応じて提示できる。	患者の基本的な臨床情報を適切に要約して提示することができる。	臨床入門	光の家レポート	学生自ら体験で学んだ事にに基づき理解されているかどうか。	フィードバックされた講評をもとに復習	レポート再提出
4-(1)	自身の知識・技能や行動に責任を持ち、生涯にわたって自らの努力で向上し続ける行動力を有している。	医師には学習を生涯継続し、知識と技能を維持し続ける責務があることを説明できる。	キャリアデザイン	1, 2年合同ワークの日のショートレポートの内容で評価する。 ※1. 医師の多様な将来像やワークライフバランスについて理解したことを記述せよ。 ※2. 医師には学習を生涯継続し、知識と技能を維持し続ける責務があることについて理解したことを記述せよ。	学生自ら体験から学んだことにに基づき概説できているかどうか。	キャリアデザインインタビューの報告書を再度熟読する。	初回評価と同じ課題への解答を求める。
4-(2)	主体的に学ぶ技能と習慣を身につけている。	知的関心に基づいて学修を完遂することができる。	選択必修	レポート・小テスト・出席	年間の4サブユニットの平均点が65点以上であること。	65点未満のサブユニットについて、講義資料による自己学習を行う。	再レポート
4-(3)	自らの行動を振り返り、学び続けることができる。						
4-(4)	解決すべき課題・問題点を自ら発見し、解決していくことができる。	観察や実験の結果に基づいて、論理的に結論を導き出し、その過程を説明できる。	機能系実習1, 2	各実習項目の出席状況、実習へ取り組み姿勢、レポートを総合的に評価する。		マンツーマンでレポート作成を指導し、学生へのフィードバックを行うことにより補習とする。	補習の過程で学修の到達度を実習中に再評価する。
4-(5)	卒業時点で修得している知識や技能をさらに深め、研鑽することが必要であることを理解しており、卒業臨床研修への移行の準備ができています。	医師としての将来設計図、またライフイベントを予測した自分の将来設計図を描くことができます。	キャリアデザイン	ショートレポートとして将来設計図の作成提出。	指定されたライフとキャリアの内容が記述されていれば合格	教員による指導	再提出
5-(1)	科学的情報を適切に収集し、論理的・批判的に思考できる。	科学的情報を適切に収集し、それらを用いて論理的に自分の考えを示すことができる。	機能系実習1, 2, 物質系	各実習項目の出席状況、実習へ取り組み姿勢、レポートを総合的に評価する。	左記の総合的評価を点数化して、65点以上を合格とする。	マンツーマンでレポート作成を指導し、学生へのフィードバックを行うことにより補習とする。	補習の過程で学修の到達度を実習中に再評価する。
5-(2)	医学・医療の発展のために研究が重要であることを認識し、研究の計画、実施、結果の解析、発表などの具体的な過程や手法を理解し、研究倫理の基本を踏まえて、取り組むことができる。	研究を行うために必要な研究倫理・安全上のルールについて説明できる。	研究入門	オリエンテーション(研究用教育訓練)参加と確認小テスト	オリエンテーション出席(収録動画視聴を含む)及び確認小テスト修了をもって合格とする。	収録動画の視聴	確認小テスト
6-(1)	患者やその関係者に敬意と思いやりを持って接し、傾聴、共感などを伴う支持的なコミュニケーションを実践できる。	模擬患者を相手にコミュニケーションの基本を用いることができる。	臨床入門	コミュニケーション実習でのレポートで評価を行う。	評価の観点を決めて点数化。65点以上で合格とする。	面談・レポート提出	再レポートを評価の観点を決めて点数化。65点以上で合格とする。
6-(2)	適切な情報を患者およびその家族が理解しやすい言葉で伝えるとともに、相手のメッセージを受け取り、相互に理解できる。	相手が分かりやすい言葉遣いで自分の考えを正確に伝えることができる。	臨床入門	プレゼンテーション実習での発表	プレゼンテーションを教員が評価。最低の評価以外は合格。	評価に対する振り返りを行いレポート提出	振り返りレポート
7-(1)	患者、同僚や他職種メンバーを尊重し、自己の役割と能力の限界を理解し、実践現場で保健医療福祉専門職のチームメンバーと協働できる。	①保健医療福祉介護の現場で働く様々な専門職の専門性を理解し説明できる。 ②自分の専門の特徴について表現することができる。	①地域医療とチーム医療 ②行動科学と医療倫理	ユニット内テスト(記述式) 演習でのワークシート提出	ルーブリック表を用いて評価	講義資料を用いて復習 演習課題の実施	WebClassにレポート提出 ワークシート提出
7-(2)	患者を含むチームメンバーと目標を共有し、意見の違いを乗り越えて合意形成の過程に参加する。	チームを作る過程とそのために必要なスキルについて説明できる。	地域医療とチーム医療	ユニット内テスト(選択式)	ルーブリック表を用いて評価	講義資料を用いて復習	WebClassにレポート提出
8-(1)	医療安全の知識を有し、それに基づいて行動できる。						
8-(2)	医療資源を適切に活用する必要性を理解し、それに基づいて行動できる。						
9-(1)	医療経済、地域の保健医療福祉介護の制度と資源、ならびに地域医療の現状と課題を理解し、地域医療の実践現場に積極的に参加する。	認知症を含む高齢者の暮らしを支えるための地域医療の課題と総合診療・プライマリケアの意義を概説できる。	地域医療とチーム医療	ユニット内テスト(記述式)	ルーブリック表を用いて評価	講義資料を用いて復習	WebClassにレポート提出
9-(2)	保健医療における国際的課題を理解し、医療における国際貢献の意義を概説できる。						
9-(3)	医療情報を英語で収集し、その概要を説明できる。	基礎医学の内容について基本的な英文を読解できる。	医学英語	授業課題、プレゼンテーション、定期試験など	基本的にユニット評価の可否と同じ基準	面談による学習相談、授業課題の復習など	ペーパーテストなどによる再試験

3年生

	コンピテンシー	マイルストーン(3年次)	評価担当ユニット	評価方法	(具体的な評価の基準があれば記入してください。)	補習方法	再評価の方法
1-(1)	医療専門職としての倫理観、責任感、熱意、誠実さを備えており、それらを基盤として行動する。	医療倫理に関する基本的な考え方を説明できる。	行動科学と医療倫理	定期試験	関連問題の合計点で評価	講義資料を用いて復習・定期試験合格者には課題	再試験・提出された課題を評価
1-(2)	患者を中心に考え、患者や社会のために行動する。	患者さんの個別の背景を考慮(想像)できる。	行動科学と医療倫理	定期試験・授業内課題	関連問題・課題の合計点で評価	講義資料を用いて復習・定期試験合格者には課題	再試験・提出された課題を評価
1-(3)	身だしなみ、言葉遣い、態度など、他者と接する基本姿勢を身につけている。	身だしなみ、言葉遣い、態度など、臨床実習において他者と接する準備ができています。	PreCC1-1,1-2	①実習オリエンテーションにおける身だしなみチェック ②PreCC1-2他職種からの評価	①教員の指示で改善できる ②「不適切」ではない	行動規範、臨床現場での身だしなみのルールを読む。 教員による面談	身だしなみ再チェック
1-(4)	自身の裁量権と能力・技術の限界をわきまえ、他者からの協力を仰ぎ、助言を活かす。	医療者はそれぞれの裁量権と能力・技術の限界をわきまえ、連携していることを説明できる。	PreCC1-2	レポート	チェックリストを用いて評価	学習資料を提示し、自己学習	レポート再提出
1-(5)	法規定や社会・組織の規則・規範を遵守し、行動する。	臨床実習を行う医学生としての規範を理解し、守ろうとする姿勢ができています。	臨床実習1コース	PreCC1-1,1-2,1-3を通してアンプロフェッショナルな行動が無いこと	各UD、UD補佐、指導教員、指導者からの報告で問題となる行動が無いこと	教員によるフィードバック	振り返りレポート提出
2-(1)	人体の正常構造と機能を理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。	人体の正常構造と機能を理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。	ヒトの病気1コース	マイルストーン評価用問題を各ユニット試験で出題し、全ユニット試験終了後に合計点で評価する。	得点率65%以上で合格	不正解問題に関する復習・レポート	提出レポート
2-(2)	個体の反応を臓器・細胞・分子のレベルで理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。	個体の反応を臓器・細胞・分子のレベルで理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。	ヒトの病気1コース・疫学を除く病気の基礎2コース	マイルストーン評価用問題を各ユニット試験で出題し、全ユニット試験終了後に合計点で評価する。	得点率65%以上で合格	不正解問題に関する復習・レポート	提出レポート
2-(3)	人の行動と心理について正しい知識を有し、臨床実践に応用できる。	健康行動理論と技法を概説できる。	行動科学と医療倫理	定期試験	関連問題の合計点で評価	講義資料を用いて復習・定期試験合格者には課題	再試験・提出された課題を評価
2-(4)	疾患における病因、病態、診断、治療について、知識を統合し応用できる。	主要な臓器別疾患の病因、病態、診断、治療を概説できる。	ヒトの病気1コース	マイルストーン評価用問題を各ユニット試験で出題し、全ユニット試験終了後に合計点で評価する。	得点率65%以上で合格	不正解問題に関する復習・レポート	提出レポート
2-(5)	人の成長、発達、加齢、老化、死について、知識を統合し応用できる。	人の加齢、老化、死について概説できる。	地域医療とチーム医療	ユニット内試験(選択式)	該当問題の正答率60%以上	学習資料を提示し、自己学習	レポート提出
2-(6)	医療とそれを取り巻く社会に必要な情報技術を正しく理解し、有効に活用できる。	医療に関連する情報技術を用いて医療データを分析できる。	地域医療とチーム医療	感染症データサイエンス演習でのレポート提出	実際のデータ分析が出来ていれば合格	授業動画の再視聴	再度レポート提出
3-(1)	医療面接において、必要な情報を適切に聴取し要約できる。						
3-(2)	基本的な診療手技を適切に用いて身体診察を行うことができる。						
3-(3)	根拠に基づく医療(EBM)に則って症候、病態から疾患を導きだし、治療計画を立案できる。	PICO(PECO)を用いて問題を定式化し、二次情報からエビデンスを収集することができる。	PreCC1-3	EBM実習終了時確認テスト	PICOを適切に言語化できている	フィードバックされた講評をもとに	再テスト
3-(4)	問題志向型医療記録形式(POMR)で診療録を作成できる。	診療情報とその扱い方について概説できる。	診療の基本	定期試験	得点率65%以上で合格	講義資料を用いて復習	再試験で65点以上で達成していること
3-(5)	診療情報を適切に要約し、状況に応じて提示できる。						
4-(1)	自身の知識・技能や行動に責任を持ち、生涯にわたって自らの努力で向上し続ける行動力を有している。						
4-(2)	主体的に学ぶ技能と習慣を身につけている。						
4-(3)	自らの行動を振り返り、学び続けることができる。	自らの体験を振り返り、自分の課題を見出し、今後の行動にどのように繋げるかについて説明できる。	PreCC1-1	第1クール両学部合同IPEのレポート	チェックリストを用いて評価	振り返りの映像教材を視聴	再度レポート提出
4-(4)	解決すべき課題・問題点を自ら発見し、解決していくことができる。						
4-(5)	卒業時点で修得している知識や技能をさらに深め、研鑽することが必要であることを理解しており、卒業臨床研修への移行の準備ができています。	医師として卒業後の多様な進路を理解し、そのための研鑽の方法を説明することができます。	キャリアデザイン	ショートレポート	授業で紹介された医師の多様な進路や研鑽方法について学んだことを言語化できている。	授業資料(動画あるいはテキスト)を提示し、自己学習	ショートレポート再提出
5-(1)	科学的情報を適切に収集し、論理的・批判的に思考できる。	科学的情報を適切に収集し、論理的・批判的に思考できる。	研究入門	配属先の各指導教員によるルーブリック評価と、学生が提出した「研究活動記録」に基づき評価する。	自分の考えを言語化できていること。	学習資料を提示し、自己学習	研究活動報告書の再提出
5-(2)	医学・医療の発展のために研究が重要であることを認識し、研究の計画、実施、結果の解析、発表などの具体的な過程や手法を理解し、研究倫理の基本を踏まえて、取り組むことができる。	①医学・医療の発展のために研究が重要であることを認識し、研究の計画、実施、結果の解析、発表などの具体的な過程や手法を理解し、研究倫理の基本を踏まえて、取り組むことができる。 ②疫学研究の方法を理解し、適切な研究計画を立案し結果を分析できる。	①研究入門、②病気の基礎2(感染、免疫) 病気の基礎2(疫学)	①指導教員による取組等の評価および研究活動報告書；②「感染」・「免疫」ユニットにおける実習とその関連課題レポート評価(コースとして判定)	①ルーブリック表による評価および研究活動報告書の提出があること； ②レポート提出があること	①・②学習資料を提示し、自己学習	①研究活動報告書の再提出；②レポート再提出
6-(1)	患者やその関係者に敬意と思いやりを持って接し、傾聴、共感などを伴う支持的なコミュニケーションを実践できる。						
6-(2)	適切な情報を患者およびその家族が理解しやすい言葉で伝えるときに、相手のメッセージを受け取り、相互に理解できる。						
7-(1)	患者、同僚や他職種のメンバーを尊重し、自己の役割と能力の限界を理解し、実践現場で保健医療福祉専門職のチームメンバーと協働できる。	医師、看護師、薬剤師等の保健医療福祉専門職の専門性や立場を理解し、医師に求められる行動について説明できる。 自己と患者や住民を含むチームメンバーの専門性や立場を理解し、自己の役割と能力の限界について説明できる。	PreCC1-2 地域医療とチーム医療	レポート ユニット内試験(記述式)	チェックリストを用いて評価 チェックリストを用いて評価	学習資料を提示し、自己学習	レポート再提出 レポート提出
7-(2)	患者を含むチームメンバーと目標を共有し、意見の違いを乗り越えて合意形成の過程に参加する。	チームメンバーと目標を共有するために、話し合うことができる。	PreCC1-1	第1クール医学部保健医療学部合同IPEへの参加	教員の観察評価で話し合いに参加していることを評価	フィードバック	レポート提出
8-(1)	医療安全の知識を有し、それに基づいて行動できる。	医療安全とその管理体制について概説できる。	行動科学と医療倫理	定期試験	関連問題の合計点で評価	講義資料を用いて復習・定期試験合格者には課題	再試験・提出された課題を評価
8-(2)	医療資源を適切に活用する必要性を理解し、それに基づいて行動できる。	医療資源を理解し、その役割を説明できる。	地域医療とチーム医療	ユニット内試験(記述式)	チェックリストを用いて評価	学習資料を提示し、自己学習	レポート提出
9-(1)	医療経済、地域の保健医療福祉介護の制度と資源、ならびに地域医療の現状と課題を理解し、地域医療の実践現場に積極的に参加する。	地域保健の現状と課題を理解し、高齢者のケア、保険診療について概説できる。	地域医療とチーム医療	ユニット内試験(選択式)	該当問題の正答率60%以上	学習資料を提示し、自己学習	レポート提出
9-(2)	保健医療における国際的課題を理解し、医療における国際貢献の意義を概説できる。	地域医療・保健医療における国際的課題について概説できる。	キャリアデザイン	ショートレポート	SDGsに関して理解したことを言語化できる。	講義動画を再視聴	レポート再提出
9-(3)	医療情報を英語で収集し、その概要を説明できる。	臨床医学の専門書や研究報告書を読解する基本的な力を身に付ける。	医学英語	授業課題、レポート、プレゼンテーション、定期試験など	基本的にユニット評価の可否と同じ基準	面談による学習相談、授業課題の復習など	ペーパーテストなどによる再試験

4年生

	コンピテンシー	マイルストーン(4年次)	評価担当ユニット	評価方法	(具体的な評価の基準があれば記入してください。)	補習方法	再評価の方法
1-(1)	医療専門職としての倫理観、責任感、熱意、誠実さを備えており、それらを基盤として行動する。		PreCC2-1	診療科実習における行動についての教員の観察評価	不適切な報告が無いこと	教員によるフィードバック	振り返りレポートの提出
1-(2)	患者を中心に考え、患者や社会のために行動する。	患者中心に考えることについての社会における基本的な考え方やその根拠を説明できる。	行動科学と医療倫理	定期試験	関連問題の合計点で評価	講義資料を用いて復習・定期試験	再試験・提出された課題を評価・口頭試験
1-(3)	身だしなみ、言葉遣い、態度など、他者と接する基本姿勢を身につけている。	身だしなみ、言葉遣い、態度など、臨床実習において他者と接する事項が説明できる。	PreCC2-1	①実習オリエンテーションにおける身だしなみチェック ②診療科実習における行動についての教員の観察評価	①教員の指示無しに準備が出来ている ②「不適切」ではない	行動規範、臨床現場での身だしなみのルールを読む。 教員による面談	身だしなみ再チェック
1-(4)	自身の成長性と能力・技術の限界をおさめ、他者からの協力を仰ぎ、期を過ぎず。						
1-(5)	法規定や社会・組織の規則・規範を遵守し、行動する。	① 臨床実習を行う医学生としての規範を遵守できる。 ② 医師の法的責務を説明できる。	① 臨床実習2コース ② 社会と医学コース	①出席遅刻、提出物、身だしなみ、ワクチン接種、健康診断の受診履歴など ②定期試験、レポート	①学生便覧や実習要項に記載されているルール、オリエンテーションでの説明を遵守していること ②得点率65%以上で合格	①教員によるフィードバック ②講義・実習資料を用いて復習・レポート	①振り返りレポートの提出 ②再試験、レポート
2-(1)	人体の正常構造と機能を理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。	人体の正常構造と機能を理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。	ヒトの病気2コース	マイルストーン評価用問題を各ユニット試験で出題し、全ユニット試験終了後に合計点で評価する。	得点率65%以上で合格	不正解問題に関する復習・レポート	提出レポート
2-(2)	個体の反応を細胞・組織・分子のレベルで理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。	個体の反応を細胞・組織・分子のレベルで理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。	ヒトの病気2コース	マイルストーン評価用問題を各ユニット試験で出題し、全ユニット試験終了後に合計点で評価する。	得点率65%以上で合格	不正解問題に関する復習・レポート	提出レポート
2-(3)	人の行動と心理について正しい知識を有し、臨床実践に応用できる。	行動変容の臨床現場での応用について概説できる。	行動科学と医療倫理	定期試験	関連問題の合計点で評価	講義資料を用いて復習・定期試験	再試験・提出された課題を評価
2-(4)	疾患における病因、病態、診断、治療について、知識を統合し応用できる。	主要な感染症疾患および全身疾患の病因、病態、診断、治療を概説できる。	ヒトの病気2コース	マイルストーン評価用問題を各ユニット試験で出題し、全ユニット試験終了後に合計点で評価する。	得点率65%以上で合格	不正解問題に関する復習・レポート	提出レポート
2-(5)	人の成長、発達、加齢、老化、死について、知識を統合し応用できる。	人の成長と発達について概説できる。	小児	定期試験、レポート	得点率65%以上で合格	不正解問題に関する復習・レポート	ユニット試験、レポート
2-(6)	医療とそれを取り巻く社会に必要な情報技術を正しく理解し、有効に活用できる。	医療に関連する情報技術を正しく理解し、有効に活用できる。	PreCC2-3	EBM実習終了時確認テスト	PubMedで論文を検索できる	フィードバックされた講義をもとに復習	再テスト
3-(1)	医療面接において、必要な情報を適切に聴取し要約できる。	実践に用いた環境で医療面接を実施できる。	OSCE	OSCE医療面接での評価	OSCEに合格する事	再試験に向けての補講	OSCE再試験
3-(2)	基本的な診療手技を適切に用いて身体診察を行うことができる。	基本的な技法を用いて診察を行うことができる。	OSCE	OSCE身体診察での評価	OSCEに合格する事	再試験に向けての補講	OSCE再試験
3-(3)	根拠に基づく医療(EBM)に則って病歴、病態から疾患を導きだし、治療計画を立案できる。	PICO(PICO)を用いて問題を定式化し、二次情報から得られたエビデンスを批判的に吟味することができる。	PreCC2-3	EBM実習終了時確認テスト	批判的吟味ができている	フィードバックされた講義をもとに復習	再テスト
3-(4)	問題志向型医療記録形式(POMR)で診療録を作成できる。	問題志向型医療記録について説明できる。	PreCC2-3	POMR演習でのレポート	最低の評価以外は合格	面談・レポート提出	再レポート
3-(5)	診療情報を適切に要約し、状況に応じて提示できる。						
4-(1)	自身の知識・技能や行動に責任を持ち、生涯にわたって自らの努力で向上し続ける行動力を有している。						
4-(2)	主体的に学ぶ技能と習慣を身につけている。	自ら実習の目標を立て、方針を考え、実施し、目標達成を目指す主体的に学習することができる。	PreCC2-1	第1, 2クールで、診療科実習、臨床推論実習それぞれ開始前に実習の目標を立て、取組、実習終了時の自己評価(ルーブリック)を行う。	自己評価が達成したかどうか	面談・振り返りを実施	第3, 4クールで再度評価
4-(3)	自らの行動を振り返り、学び続けることができる。						
4-(4)	解決すべき課題・問題点を自ら発見し、解決していくことができる。	臨床事例における課題や問題点を自ら発見し、解決していくことができる。	PreCC2-2	① 出席、提出物 ② 実習態度(特に、対象例症例に十分な敬意を払って実習に臨んでいるか) ③ 上記①②を必須条件として、最終的にはレポート内容で評価	得点率65%以上で合格	補講	再提出レポート
4-(5)	卒業時点で修得している知識や技能をさらに深め、研鑽することが必要であることを理解しており、卒業臨床研修への移行の準備ができている。						
5-(1)	科学的情報を適切に収集し、論理的・批判的に思考できる。						
5-(2)	医学・医療の発展のために研究が重要なことを認識し、研究の計画、実施、結果の解釈、発表などの具体的な過程や方法を理解し、研究倫理の基本を踏まえて、取り組むことができる。						
6-(1)	患者やその関係者に敬意と思いやりを持って接し、傾聴、共感などを伴う支持的なコミュニケーションを実践できる。	模擬患者を相手に医療面接において傾聴、共感などを伴う支持的なコミュニケーションを実践できる。	PreCC2-3 (まとめ)	OSCE医療面接での評価	OSCEに合格する事	再試験に向けての補講	OSCE再試験
6-(2)	適切な情報を患者およびその家族が理解しやすい言葉で伝えるとともに、相手のメッセージを受け取り、相互に理解できる。	模擬患者を相手に医療面接において分かりやすい言葉遣いで必要事項を伝えるとともに、話の内容に誤りがないかを確認することができる。	PreCC2-3 (まとめ)	OSCE医療面接での評価	OSCEに合格する事	再試験に向けての補講	OSCE再試験
7-(1)	患者、同僚や他職種メンバーを尊重し、自己の役割と能力の限界を理解し、実践現場で保健医療福祉専門職のチームメンバーと協働できる。						
7-(2)	患者を含むチームメンバーと目標を共有し、意見の違いを乗り越えて合意形成の過程に参加する。						
8-(1)	医療安全の知識を有し、それに基づいて行動できる。	医療安全を確保するために医療スタッフとしてどのように行動すればよいかを概説できる。	行動科学と医療倫理	定期試験	関連問題の合計点で評価	講義資料を用いて復習・定期試験	再試験・提出された課題を評価
8-(2)	医療資源を適切に活用する必要性を理解し、それに基づいて行動できる。	医療資源の有効活用についての考え方を概説している。	疾病の予防と対策、健康と健康・社会医学実習	定期試験、レポート	得点率65%以上で合格	講義・実習資料を用いて復習、レポート	再試験、レポート
9-(1)	医療経済、地域の保健医療福祉連携の制度と資源、ならびに地域医療の現状と課題を理解し、地域医療の実践現場に積極的に参加する。	医療経済や地域における様々な資源、保健医療福祉連携の制度と資源を理解し、地域や社会の要請について概説できる。	疾病の予防と対策、健康と健康・社会医学実習	定期試験、レポート	得点率65%以上で合格	講義・実習資料を用いて復習、レポート	再試験、レポート
9-(2)	保健医療における国際的課題を理解し、医療における国際貢献の意義を概説できる。	保健医療における国際的課題を理解し、医療における国際貢献の意義を概説できる。	疾病の予防と対策、健康と健康・社会医学実習	定期試験、レポート	得点率65%以上で合格	講義・実習資料を用いて復習、レポート	再試験、レポート
9-(3)	医療情報を英語で収集し、その概要を説明できる。	医療情報を英語で収集し、その概要を説明できる。	医学英語	授業課題、レポート、定期試験など	基本的にユニット評価の可否と同じ基準	面談による学習相談、授業課題の復習など	ペーパーテストなどによる再試験

